10 月 24 日のメッセージ

聖書：創世記　2：　4b－9、15－25

「天地創造」

聖書が伝えているのは、神が万物を創造されたということです(「主なる神が地と天を造られたとき、」創世記 2:4b)。それは単に神が造られたものというばかりでなく、この世界は神の思いと共にあるということを言います。

そして、神が造られた世界を見て、私たちは神の栄光を垣間見るのです(「天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。」詩編 19:2)。残念ながら、その全容は人間の目には明らかにされず、様々な事象からうかがい知ることしかできません。

そもそも土の塵に過ぎなかった塊に命の息が吹き入れられ、人間は生きる者とされました(「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」創世記 2:7)。土を耕し、神の世界に生きる者として造られました。

人間に許されているのは神を賛美し、礼拝することです(「主よ、わたしたちの神よ、／あなたこそ、／栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ、／御心によって万物は存在し、／また創造されたからです。」ヨハネの黙示録 4:11)。神の思いを受け取り、神の思いに適う生き方を目指すことです。

神は人間を愛し、「人が独りでいるのは良くない」と、この世界のあらゆるものを造られます。全てのものは「彼に合う助ける者」として造られたのです(「主なる神は言われた。『人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。』」創世記 2:18)。人間が自分勝手な思いで自由にして良いものとしてではありません。

それは当然、人間同士の関係にも当てはまるでしょう。一方的な搾取や我慢によって成り立つ関係は、正しい関係とは言えません。

まして、「神が結び合わせてくださった」(「従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」マルコによる福音書 10:9)からと一方的な従順を求めることが許されて良いはずがありません。神の思いを恣意的に歪めることになってしまうでしょう。

神の創造の業は、原初の時で終わってしまったのではありません。今、この時も新たな創造は続いています。

2021 年、SDGs(持続可能な開発目標)という言葉が急速に広まりました。数値目標だけがクローズアップされていますが、大切なのはその精神です。地球に生きる全ての命が共に喜び、共に安心して生きるために、全ての目標はあります。

神が結び合わせてくださったのは、全てのものが互いに助け合うためです。神の思いを実現するために、神が造られた世界と正しく向き合うことが改めて今、求められているのです。